

## AI 技術と画質を強化した循環器向け超音波診断装置

### Transcend Plus シリーズ販売開始

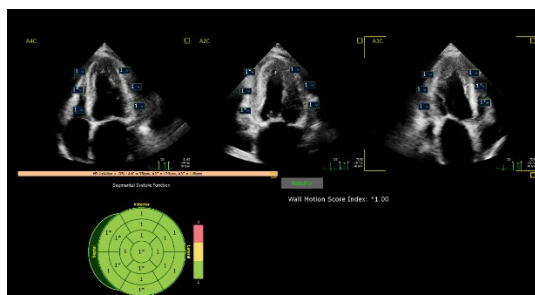
株式会社フィリップス・ジャパン（本社：東京都港区、代表取締役社長：ジャスパー・アスエラス・ウェステリンク、以下フィリップス）は、2025 年 8 月 1 日に循環器向け超音波診断装置 EPIQ／Affiniti CVx Transcend Plus シリーズをリリースしました。

過去の 30 年間で心血管疾患（CVD）による世界的な死亡数は 60%増加し、2021 年には世界における主要な死亡要因でした。<sup>1</sup>迅速かつ正確な診断への需要が高まるなか、医療現場での課題が多くなっています。2028 年までに医療従事者が約 10 万人不足されると予想されており<sup>2</sup>、医療従事者の長時間労働や人材不足、検査ニーズへの高まりを解決するものとして AI 技術はますます身近な存在になっています。そのような背景のなか、フィリップスの超音波診断装置は多くの AI 技術\*を使用した機能が搭載されており、検査の効率化や時間短縮に寄与していることが報告されています。<sup>3,4</sup> Transcend Plus シリーズは昨年リリースされた EPIQ／Affiniti Transcend シリーズの進化版であり、画質の向上と AI 機能の強化によりさらに医療現場の問題解決に貢献します。

#### 「Transcend Plus シリーズ」の主な製品特長

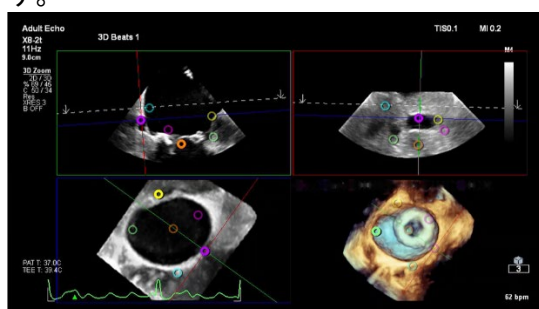
1. セクタトランスジューサにおける画質の向上で信頼度の高い検査の実現を目指します  
画像処理技術である nSIGHT Plus や XRes、Image Boostなどを改善し、経胸壁・経食道心エコー用トランスジューサで画質が向上しています。特に Transcend シリーズでリリースされた細径 3D 経食道トランスジューサ X11-4t は基本の 2D や 3D 画像のみでなく、3D からの MPR 断面の画質も向上しました。3D ボリュームレートも従来の Transcend と比較して高くなっており、心拍数の速い小児での臨床診断にもお役に立ていただけます。
2. AI 技術の拡張により検査の効率化に貢献します  
Transcend Plus シリーズにはディープ・ラーニングによる AI モジュールにより心拍と R 波を検出し統合する R-Trigger 技術が搭載されました。R-Trigger は自動計測機能 Auto Measure や、自動ストレイン解析 AutoStrain LV、そして自動駆出率算出機能 2D Auto EF と互換性があり心電図がないデータでの計測・解析をサポートします。また、Auto Measure は使用できる計測項目が追加され、よりルーチン検査での計測を効率化することに貢献します。  
さらに、壁運動をスコアリングする Auto SWM（Segmental Wall Motion）機能は学習データを増やし、より堅牢に機能することを目指しました。





### 3. SHD 領域でのワークフローの向上「3D Marker」

近年の SHD 領域での心エコー図の役割はデバイスの発展とともに高まっています。Transcend Plus には 3D Marker 機能が搭載され、3D や MPR 断面にマーカーを置くことが可能になりました。迅速な判断が求められる環境で、複雑な解剖の理解度を高められることが期待できます。



[1] World Heart Federation. Deaths from cardiovascular disease surged 60% globally over the last 30 years: report. May 2023.

[2] American Hospital Association. 5 Health Care Workforce Shortage Takeaways for 2028. September 2024.

[3] Reduce your 2D diagnostic echo exam time by 20% by incorporating Philips automated solutions into your everyday echo. 270472\_VMO9.0 Claims Evidence Report

[4] The Auto Measure feature can reduce the quantification time by 51%. VM9 claims document 270472.A

\*AI 技術の設計には Deep Learning または Machine Learning を使用しており、実装後に自動的に装置の性能・精度は変化することはありません。

販売名：超音波画像診断装置 EPIQ/Affiniti

医療機器認証番号：225ADBZX00148000

管理医療機器／特定保守管理医療機器

販売名：フィリップス 食道向け超音波診断用プローブ X11-4t

医療機器認証番号：306AFBZX00060000

特定保守管理医療機器／管理医療機器

## フィリップス・ジャパンについて

株式会社フィリップス・ジャパンは、ロイヤルフィリップスの日本法人として 1953 年に創業以来、革新的な技術を通じ、人々のより良い健康と満ち足りた生活の実現を目指しています。主な事業領域は、画像診断、超音波診断、イメージガイド下治療、生体情報モニタ、ヘルスインフォマティクス、睡眠・呼吸治療、およびパーソナルヘルスと多岐に渡ります。ヘルステクノロジーのリーディングカンパニーとして、超高齢化が進む日本の医療・健康課題解決に向け取り組んでいます。

日本の従業員数は約 2,000 人、約 70 拠点でビジネスを展開しています。（<https://www.philips.co.jp>）

## ロイヤルフィリップスについて

ロイヤルフィリップス（NYSE:PHG, AEX:PHI）は、革新的な技術を通じ、人々のより良い健康と満ち足りた生活の実現を目指す、ヘルステクノロジーのリーディングカンパニーです。

フィリップスの革新的技術は人々を中心に設計されています。先進的技術と医療従事者および消費者のインサイトを活用し、消費者にはパーソナルヘルスソリューションを、医療従事者とその患者様には病院や家庭でのプロフェッショナルヘルスソリューションを提供しています。

オランダに本社を置く当社は、画像診断、超音波診断、イメージガイド下治療、生体情報モニタ、ヘ



ヘルスインフォマティクス、およびパーソナルヘルスの分野で世界をリードしています。フィリップスの2024年の売上高は180億ユーロ、全世界に約69,700人の従業員を擁し、世界100か国以上でビジネスを展開しています。フィリップスに関するニュースはこちらからご覧ください。(http://www.philips.com/newscenter/)

**医療機器および企業に関するお問い合わせ**

株式会社フィリップス・ジャパン

コミュニケーション担当

press@philips.com